

# 文にナビ

Vol.06

三畑町

今回は鈴鹿市に多く残る軍施設の遺構の中とらから、三畑町に残る戦闘機の格納庫とら(隠蔽施設)、「掩体壕」を紹介します。

昭和18年、爆撃による被害を最小限にするため、軍は複合的な基地計画を変更し、施設の分散を図るようになりました。これを受け、追分町から椿一宮町にかけて東西1.5km、南北2kmにも及ぶ十字型の滑走路が造られ始め、その周辺に少なくとも37カ所の掩体壕が分散して設けられました。

掩体壕は土製でコの字型のものがほとんどでしたが、三畑町に残るものは、幅29.6m、奥行き23.1mのコンクリート製で、巨大なかまぼこ形をしています。周辺にこのようなものはほ

かになく、爆撃にも強い構造で、天井に吊り下げ金具が取り付けられていることから、戦闘機の補修用に建設され、特に重要な施設であったと推測されています。また、発見当時は内部に土が詰まったままの状態であり、完成間近で終戦を迎えたと考えられています。

土製掩体壕については、造成や戦後の開墾によりすべて消滅したと思われていましたが、最近になって11カ所(椿一宮町周辺に9、三畑町2)現存していることが判明しています。

戦後58年が経過した今日、当時の様子を伝える資料、遺構が次第に失われつつある中、掩体壕は大戦末期の記憶を秘め、農場に静かにたたずんでいます。

## 掩体壕

このコーナーでは、市政メールモニターさんに訪問者になっていただき、文化財の関係者などが、市内の文化財や鈴鹿市にゆかりのある人物などを紹介します。

訪問者 今津博二さん(中)  
メールモニター  
ナビゲーター 岩脇 彰さん(左)  
辻 重正さん(右)



▲『十字型滑走路 (国土地理院所有「米軍撮影の空中写真」)』

### 今津さんの感想

市内には数多くの軍施設跡が残っているとは聞いていましたが、実際に目にする機会はありませんでした。

今回訪れた施設も、県内唯一のコンクリート製掩体壕ということですが、このような施設跡が戦後50数年を経た現在も、その形をとどめていることに驚きました。

### インフォメーション

コンクリート製掩体壕は県内では三畑町でしか確認されていません。現在は、農家の納屋として使用されています。今後、戦争遺跡として後世に引き継いで行くために、国の登録有形文化財への登録手続きが進められています。

問い合わせ 社会教育課 ☎ 82-9031



すずかデータバンク 8月 8月31日現在

火災 件数/4件、うち建物2件(81件、37件減) 救急 出動数/455件(3,450件、126件増)

交通 事故数/665件、うち人身事故113件(4,581件、284件増)死者数/2人(13人、5人減)傷者数/150人(1,065人、48人増)

人口・世帯数 人口/195,338人(-17人)男性/97,855人(-36人)女性/97,483人(+19人)世帯数/71,655世帯(+0世帯)

( )内の数字は1月からの累計とその前年との比較です。

( )内の数字は前月との比較です。

広報すずか 2003年9月20日号

### キボド

収穫の秋。食欲の秋です。秋といえば「新米」ですが、今年は冷夏の影響で作柄が悪く、富山県の方では、早稲種の新米価格が30%あまり高かったそうです。日本人のお米離れに拍車がかからないかと心配しています。

これからは、季節の変わり目。朝夕の冷え込みが徐々に増してきます。たくさん食べて体力をつけ、風邪などひかないよう注意しましょう。あの炊き上がったご飯の香り、「いい匂いがしてきました」(N)

### 表紙写真

### 祭りの夜

撮影場所 弁天山公園  
撮影日 平成15年8月2日  
撮影者 小林 豊平田本町二丁目